

まちやこうえん計画

活動場所：伏見区 活動開始：平成26年3月～

京まちや七彩コミュニティ
(龍谷大学)



深草学区自治連合会
子育て世代の地域親子
名神深草森の会
弁当塾

深草学区体育振興会
深草学区社会福祉協議会
深草幼稚園
北加賀屋みんなのうえん

■ 地域が抱えていた課題

平成25年に地域調査を行った際、地域の方々から「居場所や憩いの場が少ない。」という声を耳にした。また、自治会・町内会はあらゆる地域活動に尽力している一方で、若年層は参加するきっかけが少ない。「居場所・交流の場としての公共空間」をデザインすることで、自然と人が集まり、仲良く繋がることのできるきっかけを構築したい。

■ 今後の活動

今後は「まちやこうえん計画」事業を通して、自然に集まった意見やニーズを汲み取り、子ども達が過ごしやすい地域づくりについて考える機会を増やしたい。また、その過程で、学生だけでなく、地域主導のスピノフ企画の運営も視野に入れて活動することが理想。

さらに、「EDIBLE CITY」のようなムーブメントを広げる活動や、モノづくり教室の出張企画などを活動の幅を広げていきたい。

■ 取組（連携）のきっかけ

アメリカのバークレーにおける「Edible Schoolyard（食べられる校庭）」に示唆を得て、子育て世代層が地域活動に参加する機会を提供することを目的に活動をスタートした。具体的には、子育て世代の地域親子と共に「農×食×コミュニティ形成」に焦点をあてた「居場所づくり」の取り組みとして『食育コミュニティファーム』の運営をスタートした。

■ 成果

①大学・学生の視点

- 継続的な交流により信頼関係が構築でき、初めはいち参加者であった地域の親子も企画運営に参画し、共同参画型の運営事業に移行している。
- 学生自らが、コミュニティ政策を学び、実践することで「企画・調整力」「コミュニケーション力」「遂行能力」はもちろん、「探求心」や「やり抜く力」が醸成され、地域公共人材として地域活動の担い手へと成長している。

②地域の視点

- まずは「体験」、次に「参加」、さらに主体的に事業へ「参画」し始めている。野菜の世話のため畑に日常的に足を運ぶことで、親子同士で対話し、地域の出来事、子育て、困り事について相談し合える関係になった。子ども達にとって暮らしやすい地域について考えることも増えた。
- 自らが地域の一員であることを認識し、市民参加の姿勢を持つ親御さんが増えた。子ども同士の交流も盛んで、「まちやこうえん計画」の繋がりが、小学校内にも波及している。

■ 具体的な連携の取組

毎月「のうえんミーティング」を開きながら、様々な企画の検討を進めている。

[取組事例]

収穫祭（春・夏・秋・冬）、藍染教室、流しそうめん台づくり教室、流しそうめん大会、万華鏡教室、まちや子どもクッキング、先進事例調査北加賀屋みんなのうえん、地域連携餅つき交流大会、昔遊び教室など「竈」「井戸」などの装置を掛け合わせ、「京町家」という空間で「昔の暮らし」を体験する企画が人気。

活動写真



＜龍谷大学深草町家キャンパス＞
外観



＜藍染教室＞
綺麗な藍色！世界に一つだけのハンカチ♪



＜真夏の流しそうめん大会＞
初めての流しそうめん！うまくとれるかワクワク♪



＜流しそうめん台づくり＞
みんなで作る流し台



＜第1回のうえんミーティング/苗植え＞
苗を植えて大きくなあれ！



＜のうえんミーティング最終回/夏の収穫祭＞
御食事会にご招待！ただいま準備中

